

平成27年度
第8回岡山市基本政策審議会
会議録

日時：平成27年11月16日（月）10：00～11：00

場所：岡山市役所本庁舎3階第3会議室

平成27年度第8回基本政策審議会 出席者

あべ 阿部	のりこ 典子	NPO法人みんなの集落研究所首席研究員
あべ 阿部	ひろふみ 宏史	岡山大学理事・副学長（企画・総務担当）
いずみ 泉	ふみひろ 史博	株式会社中国銀行相談役
おかもと 岡本	れいこ 玲子	岡山大学大学院保健学研究科教授
かたやま 片山	ひろこ 浩子	NPO法人岡山市日中友好協会会長
こしむね 越宗	たかまさ 孝昌	株式会社山陽新聞社代表取締役会長
こやま 小山	あきら 旭	岡山市連合町内会副会長
しおみ 塩見	まさこ 槿子	岡山市連合婦人会会長
すぎやま 杉山	しんさく 慎策	就実大学経営学部学部長
せいた 清板	よしこ 芳子	ノートルダム清心女子大学大学院人間生活学研究科教授
たかはた 高旗	ひろし 浩志	岡山大学教師教育開発センター教授
はまだ 浜田	じゅん 淳	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授

敬称略五十音順

開会

1 開会

○事務局（植月） 定刻がまいりましたので、ただいまより平成27年度第8回岡山市基本政策審議会を開催いたします。開会にあたりまして越宗会長にご挨拶をお願いいたします。

2 会長あいさつ

○越宗会長 皆さん、おはようございます。大変お忙しい中、今日も岡山市の新たな総合計画の策定についてのご審議のためにご出席いただきまして、ありがとうございます。

今日は表題にございますように、平成27年度第8回の審議会、昨年からの会議を含めると通算で10回目の審議会ということになるわけでございます。今月6日の前回の審議会で、新たな総合計画の基本コンセプト、あるいは長期構想に係る素案につきまして、委員の皆さんにいろいろご議論いただきました。本日は前回の議論を踏まえ、修正された案が事務局から提示されております。これらの提示された文案につきまして、もう一度改めて委員の皆さんにご議論いただき、皆さんのご意見を可能な限り集約いたしまして、答申案としてとりまとめていきたいと考えております。

本日が長期構想の策定に向けての最後の審議ということになります。委員の皆様からは、それぞれの立場からいろいろご意見を賜り、実りある議論を交わしていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

○事務局（植月） 続きまして本日の委員の皆様の出席状況ですが、3名の委員の方がご都合により欠席でございます。なお基本政策等に関する審議会設置条例第6条第2項に規定する委員の過半数の出席をいただいておりますので、当審議会は成立しております。本日の司会を務めさせていただきます、総合計画課課長補佐の植月でございます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは本審議会設置条例第6条第1項により、本審議会の議事運営につきましては越宗会長をお願いいたします。

○越宗会長 3名の委員がご欠席ですが、高旗委員さんは少し遅れてご出席になるということでございます。それでは会議次第にしたがいまして、議事を進めてまいりたいと思っております。議事に入ります前に、いつものように傍聴の取り扱いについて事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（植月） はい、本日は現時点で傍聴希望者が1名いらっしゃいます。特に支障

がなければ傍聴の許可をいただきますとともに、本審議会を公開といたしまして、この後、傍聴希望者が来られた場合につきましても傍聴の許可をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○越宗会長 本日の審議につきましても特に支障になる事由はないと思われまますので、公開にしたいと思います。委員の皆さん、よろしいでしょうか。

[異議なし]

○越宗会長 それでは傍聴を許可いたします。よろしく願いいたします。

○事務局（植月） はい、それでは入っていただきます。

3 協議事項（1）岡山市長期構想（仮称）に係る答申案について

○越宗会長 それではこれから議事を進めてまいりたいと思います。会議次第にございますが、まず協議事項1の岡山市長期構想、仮称でありますけれども、係る答申案につきまして協議をしたいと思えます。まずは事務局から資料の説明をお願いします。

○事務局（門田） 事務局の総合計画課の門田でございます。よろしく願いいたします。恐縮ですが座って説明をさせていただきます。今日のメインは資料1の答申案でございますが、これに入ります前に資料2を先に説明させていただきます。

前回提示した資料でございますので、修正した点に絞って説明させていただきます。新たな総合計画の基本的な考え方ということで、基本目標につきましては、前回は「未来を拓く 躍動都市・おかやま」とお示ししておりましたが、前回の審議会の中で、岡山といえば桃太郎ということで、それを活用しない手はないというご意見もございまして、この度「未来へ躍動する 桃太郎のまち・おかやま」ということで案を示させていただいております。

左の下の「時代の変化や要請」では、グローバル化・情報化の視点が薄い、欠落しているのではないかというご指摘がありましたので、それを2つ目のポツのところに入れさせていただきます。合わせて答申の本文にも記載を追加しております。3つの将来都市像の下の黄色で、施策の実施に主体を入れたほうがいいのか、特に市民主導といったことも場合によっては入れたほうがいいのかというご意見もありました。それで「市民と行政が協働の下」という言葉をここに入れさせていただいております。以上が主な修正点でございます。

それでは資料1の答申案についてご説明させていただきたいと思えます。なお、委員のお手元には本日追加で見え消し版を参考資料として、お配りしておりますので、適宜ご参

照いただければと思います。この資料1に基づいて説明させていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

資料1をめくっていただきまして1ページをご覧ください。「策定にあたって」というところ、前回空白になっておりましたが、先ほどの資料2に示した考え方に沿って文章化をいたしております。ここは読み上げをさせていただきます。

「岡山市は、平成21年4月の政令指定都市移行に合わせて、「岡山市都市ビジョン 新・岡山市総合計画」を策定し、これに基づき着実にまちづくりを進めてきました。一方、我が国を取り巻く社会経済状況が大きく変化し、今後岡山市においても、人口減少社会の到来が見込まれる中、変化を実感したいという市民のまちづくりへの期待の高まりを踏まえ、岡山市らしさを発揮しながら、都市の活力を生み出し、さらなる岡山市の発展を実現していかなければなりません。このため、本総合計画は「水と緑」に象徴される上記都市ビジョンの理念を引き継ぎながら、住みやすさに一層の磨きをかけるとともに、国内外を視野に入れた未来志向の躍動感のあるまちづくりを、市民と行政が協働して進めることにより、まちの変化を創出し、まちの活力、市民の岡山への愛着と誇りを高めることをめざし、策定します。」ということで入れさせていただいております。

隣の2ページのところですが、先ほど申し上げましたように「グローバル化・情報化のさらなる進展」という項目を新たに立てております。1つ目の丸では、グローバル化の進展を踏まえた施策の展開が求められているということ、2つ目の丸では急速に進化するICTを有効に活用して、効率的・効果的な市民サービスの向上を図っていくことを記述いたしております。

3ページの一番上の丸でございますが、課題をなるべく端的に入れたほうがよいのではないかというご意見もありましたので、教育ですけれども「全国的な調査結果から、子どもものの学力、暴力行為などの問題行動や不登校には、大きな課題があり」という形で、前回よりは端的な形でお示ししております。その下の「安全・安心に対する市民意識の高まり」の中の3つ目の丸でも「市民の健康寿命が全国平均を下回っている状況を踏まえ、」ということで、ここも課題をより明確に書いてございます。(2)の市民の課題意識で「岡山市らしさの発揮と発信」のほうでも、最後の丸のところですが、その冒頭に「全国から見た岡山市の認知度は必ずしも高いとは言えない状況」、この文章を追加で入れております。

6ページでございますが、先ほど申しましたように、都市づくりの基本目標といたしましては、「未来へ躍動する 桃太郎のまち・おかやま」ということで提示させていただいております。

7ページをご覧ください。7ページから8ページにかけては、3つの将来都市像がございます。将来像1でございますが、前回は「中四国をリードし、国内外から人・モノを呼び込む経済・交流都市」でございました。「呼び込む」という表現が適切かどうかというご意見、また価値の創造のような要素を入れてはどうかというご意見もありました。文化の要素もこの将来像1に入れてきておりますので、創造性という言葉はあったほうがいいのか

かなということで、いまご提示しておりますように「中四国をリードし、活力と創造性あふれる経済・交流都市」というのを案としてお示ししております。8ページのところの将来像2でございます。前は「うらやむ」という言葉を使っておりましたが、「うらやむ」という言葉が適切かどうかということ、ちょっと妬みの要素もあるのではないかとということ、「あこがれる」という言葉のほうが適切ではないかとということで、「誰もがあこがれる子育て・教育都市」という案をお示しさせていただいております。また、その中の囲みの説明の、2つ目の丸でございますが、前回「岡山型で教育力を高める」という表現で、「岡山型」というのを言うべきなのかというご指摘がございました。ここは「未来を拓く人材を育てる」という表現に改めまして、文章も「他者や社会とのつながりを重視して、自ら考え、学び、行動する、未来を拓く人材が育つ都市をめざします」と改めてございます。将来像3でございますが、前は「全国から見ても傑出した安全を築く健康・環境都市」ということでございまして、若干この「見ても」というあたりが少しもたついた表現になっていたということで、「全国に誇る、傑出した安心を築く健康・環境都市」という案をお示しさせていただいております。

9ページ「都市づくりの10の基本方向」でございます。まず、基本方向1の囲みの文章でございますが、産業振興にあたっては地場の中小企業振興が核だということをもう少し明確に示したほうがいいのではないかとご意見もございまして、冒頭に「地域経済を支える中小企業の育成・強化を図るとともに」ということで中小企業という言葉を入れております。10ページの基本方向5は、先ほどの都市像2と同様に、岡山型の言葉を外す等の修正をここでもさせていただいております。その下の基本方向6でございますが、囲みの文章の最初の「ESDの理念を活かしながら」という部分を「ESDの理念をまちづくり全般に共通する行動指針としながら」という言葉を補っております。大学が多いので、大学連携をもっと重視すべきではないのかというご意見もありましたので、2行目の最後に「知の拠点である大学等の」と、少し大学を強調した形にいたしております。最後ですけれども「外国人市民との交流が活発で」の後に「多文化共生の」という言葉を補っております。11ページをご覧ください。基本方向7でございます。この記述が全体に冗長でございましたので、他と合うように簡潔にしております。そして、3段落目の高齢者、障害者、生活困窮者等の記述につきましては、前回の審議会でのご意見を踏まえて訂正をしております。最後の行には「必要な福祉サービスを提供することにより」ということで、福祉はきちんと重視してやっていくということを表現いたしております。

以上が主な修正点でございます。あと計画体系案を資料3として参考でお示ししております。説明は以上で終わらせていただきます。よろしくお願いたします。

○越宗会長 はい。ただいま事務局からご説明がありましたけれども、前回の議論で出た意見を踏まえて上手く修正した文案がかなり組み込まれていると思います。それでは岡山市長期構想の答申案につきまして、都市づくりの基本目標、3つの将来都市像、そういう

ものを中心に10の基本方向を含め、皆様からご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。どうぞ、杉山委員さん。

○杉山委員 いろいろな意見をうまくまとめていただいて、ありがとうございます。ただ審議会なので、すべていいと言うと審議会ではなくなりますので、意見を述べさせていただきます。多分このフレームワークというのは総務省がつくられて全国の行政に配付されて、まとめあげられているんだろうとは思いますが、通常の企業経営だとこれはほんの一編であって、片一方には収益計画があって、そして経費計画があって、最終的には利益計画が入っていないと計画にならない。最近ではキャッシュフローも入ります。いま10年計画をつくっている会社は恐らくないと思います。中期の5年計画くらいが一番長いスパンだろうと思います。ただ行政の場合は、いろいろな課題に長期的に取り組む必要があるので、こういう10年計画が必要なのだと思います。ただ、行政の皆様方に大変口はばったいい方なんですけど、収益計画が完璧に欠落しています。書いてあることはすべて費用がかかることばかりなので、その点は重々頭に入れておいていただきたいと思います。10番目の都市経営のところ、いかに効率化を図っていくのか、経費削減をどういうふうにやっていくのかということもしっかり考えていかないといけないのではないかと思います。大変差し出がましい、生意気な発言ですが、このような問題点を冒頭に述べさせていただきますと思っています。

2点目は「桃太郎のまち・おかやま」という平仮名の「おかやま」ですけれども、答申案は平仮名でいいと思いますが、外部にコミュニケーションを図った時に、平仮名の「おかやま」というのは世界でまったく通用しない。なので、コミュニケーションとしての表現には、できるだけ漢字をうまく使うということを考えていただきたいと思っています。基本目標を変えるということではないけれども、平仮名や片仮名になったとたんに、それは韓国のハングルと一緒に世界の共通性がまったくない。これから中国や漢字文化圏の人たちが岡山に来た時に、平仮名だとほとんど誰も分からないということを全職員の方がぜひ頭に置いて、行政活動を進めていっていただきたいと思います。以上です。

○越宗会長 はい。市長、何か。よろしいですか、最初の部分で。

○大森市長 最初に行財政の収支計画の話をされましたけれども、それはやはり我々としても非常に大きな点です。具体的な行財政の計画は、この総合計画の後に、これらを踏まえて考えていきたいと思っています。前市長の段階で相当、行財政改革も行っていただきました。先日、山陽新聞に県内の市町村の財政状況が出ておりましたけれども、岡山市自体大分良くなってまいりました。できるだけ借金を残すことなく、健全な形でこれから行財政を動かしていきたいと思っていますので、今回の計画を踏まえて議論させていただきたいと思っています。

○越宗会長 はい、ありがとうございました。それじゃ、どなたか、ご意見をどうぞ。はい、阿部宏史委員さん。

○阿部宏史委員 非常によくまとまっていると思いますが、一点だけ細かな話ですけれども、8ページの将来像2のところ、「多様な担い手を活かす」の項目の中に「ESDの理念に基づき」というところがありますが、こういった市民が協働で持続可能な社会をめざすというニュアンスと、ESDのリーダーの教育ということで、人材育成ということがもう一つ大きな目標としてあります。なので、この「より良い地域をつくりあげる市民主体」ということに加えて「次代を担う人の育成」というか、そういった視点を少し入れていただければ、そのほうがより正確さが出てきますので、よろしくをお願いします。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。

○大森市長 阿部先生のおっしゃる通りだと思います。修正させていただきます。

○越宗会長 どうぞ。

○岡本委員 失礼します。非常によくまとまっていて良いなと思いました。2点だけ述べさせていただきます。「グローバル化・情報化のさらなる進展」という項目が打ち出されて非常にいいなと思ったのですが、いろいろなものが多様になればなるほど格差というものが広がっていくわけで、格差社会が非常に大きな課題であるということをいろいろなところで聞きます。ただ、この答申案の中には「格差」という言葉がどこにもない。健康もそうだし経済もそうだし、それこそいろんなものに格差が生じるので、入れようと思ったらいろんなところに入ってしまふということになるのかもしれませんが、「時代の潮流と課題認識」の項目なので、課題として「格差というものが広がる」ということは入れたほうがよいのではないかと思います。

それからもう1点、7ページの「コンパクト化とネットワーク化」「多様性と連携」の図ですけれども、いろんな字の大きさがあつたり、フォントもいろいろだったり、矢印の向きも角度が違っていたり、ちょっと見にくいかなという気がいたします。もっとバージョンアップをされるんだとは思いますが、必要な図だと思いますので、もう少し見やすくなるといいなと思いました。以上です。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。市長、何か。

○大森市長 私もこの図がちょっと見にくいと思っていて、字を揃えるなどは簡単で

すが、岡本先生、何か具体的にこういうところをこう変えたほうがいいというご意見があれば教えていただければ。ここは前回もご議論いただいたことで、私も見にくいと思いますので、主旨は変えない範囲で修正をさせていただきたいと思います。格差社会については、11ページの基本方向7の下から3行目のところに生活困窮者とかの表現が出てはいますが、いまの岡本先生のお話は現代の潮流と課題認識という点でのご指摘だと思います。それらをどう表現していくか、確かに1つのポイントではあります。グローバル化の中で経済が広がっていき、その中で賃金が抑えられ、非正規社員が増えて、それが子どもの貧困等を生んでいる。いろいろな連鎖になっている。それらをどう表現していくか、ちょっと考えてみたいと思います。

○越宗会長 はい。それでは清板委員さん、どうぞ。

○清板委員 将来像2のところ子ども像を描かれているのですが、将来、「夢と希望をもって」、それから「社会のつながりを重視して、自ら考え、学び、行動する」というような、立派な子ども像が描かれているように思います。しかし、立派な子どもであるだけでなく、人のことを考えて思いやりを持つとか、他者の心の中にあることを想像するとか、というような人に対する優しさ、思いやりのある、そういった子どもを育てるところも必要なのではないかと思います。それが失われていることがひいては教育の問題とか暴力の問題につながっているのだと思いますので、そういったワードを何か入れることができないかなと思っています。

それから資料2のフローチャートですが、一番上から3番目の同じようなところに平成21年から28年があって、その右側にこの10年があるというように、X軸に時間軸が刻んであります。大体矢印というのはベクトルの感覚を持つので、基本的にはX軸にしたがって時間軸が右に進むようになっている。左から右に原因があって結果が起きてくる、前にあったことがあって後のことが起きてくる、というような因果律というか、独立変数と従属変数みたいなものを示すので、左から右に向って時間と物事は進むという感覚を人は持つと思います。ですからX軸が時間の流れと因果律を示すということを、もっと基本的にとらえなくてはいけないと思います。そうすると矢印のベクトルも、時間軸に流れていくものに対して、水平から影響を及ぼすものとして共通に考えられるような項目を、下から上の矢印とか、上から下の矢印というふうに考えて矢印を使ったほうがいいかと思えます。

その時間軸にしたがいますと、例えば左側の「市民の課題意識」と「時代の変化や要請」というのは、いずれも下から基本コンセプトに向っていくものだと思いますので、「市民の課題意識」が横向きの線で「時代の変化や要請」からの矢印に入っているというのは、少しこの二つの関係性が分かりにくいという感じがします。基本コンセプトに対して「市民の課題意識」がやや左側にあり、「時代の変化や要請」がやや右にあって、基本コンセプト

に入っていくという形ではないかと思います。そして、3つの将来都市像の下に黄色い項目がありますが、それは時間軸では少し右に出てくるものと考えた方がいいのか、必ずしも因果関係を示す矢印ではなくて、何か別の線で下に関連づけることが必要なのではないかなと思います。形而上学的な上位概念になるべく上にあって、具体的なものがある程度下に並ぶというふうな統一性をもっていくと、もう少し分かりやすくなるのではないかと思います。

○越宗会長 チャートの具体的な改善のご提案がありました。参考にさせていただければと思います。それじゃ、ほかの委員さん、どうぞ、片山委員さん。

○片山委員 こうしてほしいというよりは感想なのですが、市民が主役で、躍動するのはまちではなくて、市民であってほしいと思っています。行政はこのように方向性を定め、総合計画をつくっていて、その中にも市民と行政が協働のもとと、協働を強調されていますが、あくまでも行政は市民を支援する、サポートする姿勢が大事であると思っています。今回の場合、その姿勢というものがいろんなところで表れていると思いますので、この構想計画は大変良くまとまっているのではないかと思います。感想でございます。

それからちょっと基本的なことをお尋ねしますが、介護資源とありますが、それは具体的にはどんなものなののでしょうか。何かすごく基本的なことをお尋ねして恥ずかしいのですが、教えていただけたらと思います。

○越宗会長 はい。

○浜田委員 医療資源とか介護資源という言葉を使いますが、例えば医療資源ですと、病院とか診療所などの施設、それから病院で働く医師や看護師とかの医療従事者を指します。介護も同様で老人保健施設とか特別養護老人ホームとかの施設とそこに従事する人材、そういうものを資源と言っていると思います。

○片山委員 分かりました。ありがとうございます。

○越宗会長 じゃあ、浜田委員さん、続けていかがですか。ご意見。

○浜田委員 私も特に意見はなくて、非常によくまとまっているなと感じております。片山委員さんと同様に感想だけ申し上げさせていただきますと、一つは資料2で言いますと静から動へ、躍動ということで、要するに動きをつくることは明確に打ち出している点が1点と、市民と行政が協働する、コラボレーションする点、この2点が非常に印象に残りますし、的確な方向性を示されているのではないかと考えております。

これから特に動きということで、どうやって動きをつくりだしていくのかということが非常に重要だと思っております、まずは市民とともに理念を共有する、あるいは市民自身の変化しないといけないと考えられているようなので、すでに共有しているのかもしれませんが、より認識を共有するためには話し合いのプロセスが大事なかと考えていまして、市長さんを先頭に市民のもとに飛び込んでいただきまして、いろんな議論をしていただければいいと思います。我々もそういう方向で、この計画をもとにして市民との対話といたしますか、そういうものをつくっていきたいと考えます。

市民の意識も相当変化していることを感じますし、私も大学で学生とも話をするんですが、例えばいま医学生に地域医療をかなり体験させたりしていて、先日も話をしていたら、もっと地域を知りたいという学生が数人おりました、大分学生の意識も変わってきています。津島の学生とか、地域に関心をもっている学生が増えているということで、そういった学生の意識の変化なども取り上げながら、我々も大学人として動きをつくっていききたいなと感じております。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。

○片山委員 すいません、付け加えてですが、この計画、方向性を市民の方たちが見た時に、自分たちが主役でこれをやらなければならない、やろうという気持ちになってくれるのが一番だと思うのですが、そうなっていただくためには知っていただく、より多くの市民の方々に知っていただくということで、広報をできるだけ幅広い場所、人にしていただければと思います。

○越宗会長 はい、ありがとうございました。はい、どうぞ。

○阿部典子委員 私も全体的に見せていただいて、よくまとまっているなと思いましたが、市民が協働しましょう、市民が何かをやりましょうというニュアンスが、少しまだ表現が薄いのかなということを思いました。例えば基本方針7でいうと「地域包括ケアシステムの構築を進めます」と入っていますが、実際、地域包括ケアシステムというのは、地域の皆さんと一緒につくらないといけないということは、専門家や行政の人とかは分かると思うんですけど、住民は勝手に作られるものと思ってしまいそうです。これから自分たちも高齢になって何か生きがいという時に、やはり自分たちが一緒に地域を支える、健やかに暮らせるまちをつくるんだということを少し意図できるような表現がないのかなということを思いました。全体的に理想的な目指す姿を見ていただくものなので、手厚い印象を持ちますが、これらを実現する過程では、大きく投資してダイナミックに変えていくものもあれば、一緒に考える場をたくさんつくって、小さなものをたくさん市民からつくってもらおうとか、中小企業が何かできる場をつくるとか、そういうことがすごく大事になっ

てくると思います。それは次のより具体的なプランに移行する時にそういうことになると思いますが、行政側がやることと、「市民と一緒にやらなきゃいけないんですよ、そのためにこういう応援をするんですよ」という、そのあたりの役割分担が、これから計画が進むにつれて落とし込まれていくことを期待しています。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。市民が主役というか、市民がこのプランにどう参画していくかというところのお話ですが、そういう意味で市民代表であります、小山委員さんと塩見委員さんに、そのことも含めながら、ちょっとご意見をいただきたいと思っています。

○小山委員 前回欠席させていただきましたが、書類が送ってこられたので、よく見ました。かなり精査されていいものができているかなと思いました。特に市民代表として一番うれしかったのは、6ページの「市民と行政がともに変えていく」というこの項目ですね。これはまさにその通りだと私も思います。これをなくして本当の行政は成り立たないと思います。岡山市は広大な面積があります。したがって市民の代表としては、特に周辺地域と中心地域との連携というものを、もう少し具体化されたらもっといいのかなと思いますね。一方的に周辺地域が取り残された感覚にならない様、お願いいたします。

○塩見委員 ありがとうございます。将来都市像のリードの言葉が非常によくなったというのが第一の感想でございます。それから、これを見て市民の人が本当に積極的に動いてくれるといいなと思いますが、この「市民と行政が協働のもと施策を実施していく」というのが、わくわくするものがもう一つどうかなというところがあります。それでも市民が参画していく段階で、行事やプランを入れていただくことで、参画していこうという気にはなるんじゃないかなと思います。それからもう一点、コンパクト化とネットワーク化の図で、都心と市街地と周辺部とに分かれています、周辺部の小さな拠点づくり、集落のところがあまりにせせこましいので、少し分かりづらいうように思います。ここを市民の人が見たら私たちは小さな拠点で、そこの交通機関がどうなるのかと思われまして、もう少しコミュニティバスの運行とか、そういうところを分かりやすくしていただけたらと思います。

○越宗会長 はい。高旗委員さん、どうぞ。

○高旗委員 遅くなりまして大変申し訳ございませんでした。前回から今回までのわずかな期間の間に、非常に丁寧に修正を加えていただいたなと思いながら拝見しました。7ページ、8ページの3つの将来都市像の言葉、表現といいますか、前回要らざることを申し上げましたけれども、本当にすんと落ちるような形で修正を加えていただいたなと思

ます。将来像2に書かれているところが、私の専門になりますのでひと言申し上げたいと思いますが、一つは2つ目の「岡山市に生まれ育つ」という言葉ですね。岡山市に暮らす子どもたちのことも含めて考えると、「生まれ育つ」という言葉がどういうところになってくるだろうかということを考えました。「岡山市の子どもが」という表現でもいいのかなどちょっと思いました。もう一つは「多様な担い手を活かす」のところで、「役割分担を明確にし」とあるのですが、ちょっと何か突き放したような感覚も受けますので、「それぞれの役割を担い」とか、何かそういう表現にさせていただくと多少は温かい感じがするのかなと思いました。いずれにしましても、その後の「都市づくりの10の基本方向」につきましても、前回の意見を丁寧に踏まえていただいて、読みやすく市民の皆様にも分かりやすい言葉を紡いでいただいているなと思いました。以上です。ありがとうございました。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。それじゃ、泉副会長。

○泉副会長 2つほど。1つはですね、資料3を見ると、中期計画では農業問題について取り上げられているのに、答申案に農業のことが書かれていないのは、ちょっとまずいのかなという感じがしました。したがって、答申案の中に織り込むのかどうかということをご検討いただきたい。そのうえで、資料3で農業に関しては「多彩で活力ある農業の振興」をするということが中期計画の骨子にあるので、そういう言葉を本体のほうに入れたほうがいいのかなどという印象がございます。全体とすると、答申案を踏まえて中期計画の中に落としていただき、来年の予算の中に落としていただき、杉山先生がおっしゃるように全体的な財政計画を示されるんだろうと思っておりまして、大変期待しているところでございます。全体のまとめとすると非常によろしいのではないかと印象を受けました。以上でございます。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。私も皆様のご意見とほぼ同じでございます。答申案の中身の文言はいろいろと新しいものが入っていて結構だと思います。基本目標の「未来へ躍動する 桃太郎のまち・おかやま」。これは簡潔でかつ象徴的で非常にいいのではないかと感じております。岡山市には2、3年前に「桃太郎市」あるいは「伝説の岡山市」というキャッチフレーズがありました。一つの流れを継承する、そういう意味でもよろしいのではないかと思います。

前回の審議会で若干、桃太郎の解釈で少しマイナスの面の評価があるというご意見もあり、確かに福沢諭吉が昔話の桃太郎をちょっと非難するなど、いろいろございました。それから桃太郎伝説というと、例えば香川県あるいは愛知県など各地にあるわけです。そういうことは我々としても理解はしておくべきであろうと思いますが、あまりマイナス面ばかりの解釈でとらえてはだめであろうと思います。逆に桃太郎が今、テレビのコマーシャル等でも各企業が随分取り上げていまして、むしろ仲間と力を合わせて困難に挑むと

いうストーリー展開が多いわけです。岡山県もつい最近、俳優を起用して桃太郎をアピールしようという動きがございますから、こういうものと連携しながら岡山市の新しい桃太郎というものを打ち出していければいいのではないかと思います。

今日ご欠席の委員さんで梶谷委員さんが、基本目標で「桃太郎だけではなく、未来へ躍動する、はいいのですけれども「桃太郎と温羅のまち・おかやま」としてはいかがでしょう」というご意見を寄せておられます。「桃太郎と温羅が揃うのが岡山の特徴なので、異質なものが共生することで交流を表現できると思います」というご意見がございました。これにつきましては温羅はなくてもというか、ないほうが私はよろしいのではないかと思います。いかがでしょうかね。桃太郎でよろしいでしょう。ご意見としては伺っておきますということで。ひと通り委員の皆様方に今回の答申案につきましてのご意見を伺いました。ありがとうございました。

まだいろいろなご意見を頂戴しておりますので、本日の意見も踏まえまして、答申案をとりまとめていきたいと思っておりますけれども、時間的な制約、今月中に答申という方向にもってきたいので、最終的な答申案につきましては会長の私にご一任いただければ、事務局とさらに詰めさせていただくということにしたいと思っておりますが、その点についてご了承いただけますでしょうか。よろしゅうございますか。ありがとうございます。それでは会長一任とさせていただきます。委員の皆さんには事務局のほうから報告をしていただくということにさせていただきたいと思っております。それから答申でありますけれども、審議会を代表いたしまして、私と副会長の泉委員さんで、近日中に大森市長さんにお渡しをしたいと、そのように考えております。その点につきましても委員の皆さんにご了解をいただきますよう、よろしく願いいたします。

3 協議事項（2）その他

○越宗会長 それでは続きまして協議事項の2に移りたいと思っておりますが、その他について事務局から何かございますか。

○事務局（門田） 今後でございますが、いま会長からもお話がありましたように、長期構想につきましては近日中に答申をいただいた後、市の素案として11月定例市議会でも議論をしていただくとともに、市民の皆様からもご意見をいただいて、そのうえで来年の2月議会に議案として提出、3月末に策定ということで考えてございます。それから次回の審議会でございますが、これにつきましては今後の状況を踏まえまして、会長とも相談させていただいて、改めてご連絡を差し上げたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○越宗会長 ということで、今後の流れはそういうことでございます。昨年の12月にスタートして以来、10回にわたりまして審議会を開催してまいりました。本当に委員の皆様

様には忙しい中をご出席いただきまして、また大変熱心にご議論いただきまして、誠にありがとうございました。お陰をもちまして長期構想の策定に向けてのひと通りの議論を今日終えることができました。先ほどの報告のように日を改めまして、近日中に大森市長さんに答申を行いたいと思います。これまでの皆様のご尽力に対して心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。それじゃ大森市長、最後にひと言お願いいたします。

○大森市長 委員の皆さん、本当にありがとうございました。当初の我々の事務局案、拙い事務局案から随分改善されたような気がいたします。本当にありがとうございました。いま会長さんがおっしゃったように近日中に答申案をいただけるという話ではありますが、最後にやはりいくつか抜けているといいですか、そういったところがございます。岡本さんがおっしゃったような格差社会、現代の潮流といいですか、例えばいま私、オレンジのリボンを付けているんですが、これは児童虐待やDVとかの関係です。それもいまの社会が生んだものであります。それらの取り扱いをどうするか、また会長と相談しながらやらせていただきたいと思います。また泉副会長がおっしゃったように農業問題は中期計画には書いてある、ないしは農業都市という現況は書いてあるが対策が抜けている。いまの流行の言葉である地方創生ということもちょっと抜けているところもある。基本的な主旨は皆さんにご議論いただいた通りで整理をさせていただければと思いますが、少し議論の狭間に入っているようなものもまだございます。近日中に答申ということですが、その間に何かお気づきの点があれば、ぜひ教えていただければと思います。また図とか若干見にくいところは修正させていただきたいと思います。10回ということで、これだけのメンバーに10回も集まっていたとというのは中々大変なことであります。本当にありがとうございました。この計画に則って、いい岡山市をみんなで作っていききたいと思えます。よろしく願い申し上げます。ありがとうございました。

○事務局（植月） これをもちまして本日の平成27年度第8回岡山市基本政策審議会を閉会いたします。皆様、お疲れさまでございました。

閉会